

ひばりクリニック実習

自治医科大学 5年 三澤啓吾

私は、大学の授業の一環としてひばりクリニックとうりずん実習を2日間させていただきました。ひばりクリニックでは、外来診察の見学をさせていただきました。ひばりクリニックでは、患者さんのことをご利用者さんとお呼びするのですが、高橋先生の診察はそのご利用者さんに大変信頼されていました。高橋先生の診察は、立ち上がってご利用者さんをお出迎えするところから始まります。自己紹介を丁寧にした後、お話をよく聞いておられました。ひばりクリニックには検査施設はなく、先生の間診と身体診察がほとんどで、血液検査はできますが、普段実習している大学病院と違ってすぐには結果がわかりません。それでもご利用者さんたちが大変満足していらっしゃるのには、先生方の丁寧な診察と暖かい雰囲気づくりからきているのだろうと感じました。また、先生を含め、スタッフの方々が白衣を着ないで仕事をしている姿が印象的でした。これは、ご利用者さんとの間の壁を作らないための取り組みでもあり、スタッフ間の壁を作らない取り組みでもあるそうです。

高橋先生の訪問診療にも同行させていただきました。先生の訪問はとても丁寧で、さらに親しみのある態度をとっていらっしゃいました。ご利用者さんたちは、自分の体のことだけではなく、生活の中での相談もしていらっしゃいました。世間では医者には体を見て生活のことは介護の方がみる、といったスタイルが普通だと思っていられると思いますが、高橋先生は普段の生活の悩みも聞いて、介護との橋渡しやアドバイスなどをなさっていました。このように、「この先生がいたら安心して暮らせる」と思える医師がご利用者さんにとって必要な医師なのではないかと思いました。

ひばりクリニックには、うりずんという施設が併設されています。うりずんとは、普通の保育園や幼稚園では受け入れてもらえない医療的ケアが必要な重症障がいを持った子供を日中預かるうりずんや、障がいをもった子供のご自宅にスタッフが伺って支援するていだなどがあります。この施設には、当然人工呼吸器をつけた子供もいらっしゃるのですが、1対1の手厚い支援や楽しい雰囲気づくりがあり、とても楽しそうに過ごしていらっしゃいました。また、ご家族の方も付きっきりでは取れなかった自由な時間を利用して友達を会えたり、同じ悩みを持った親御さんとの出会いができたりしているそうです。この取り組みは、援助がないと運営できないようなのですが、今後、こういった施設を支える取り組みがもっと増えたらいいなと思いました。

今回は短い時間での見学ではあったのですが、ひばりクリニックのスタッフの方々の優しいスタイルには真似したい部分が沢山あって、大変有意義な実習になりました。